

東北地方 1か月予報の解説（予報期間：10月13日～11月12日）

平成13年10月12日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



- [気温]：東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。「低い」の可能性が次に大きく、その確率は30%です。「高い」の可能性は20%と小さい。
- [降水量]：東北地方は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。
- [日照時間]：東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。「多い」の可能性が次に大きく、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう1か月

天気は周期的に変わるでしょう。低気圧の通過後は寒気が入り、東北日本海側ではしぐれる所がある見込みです。

平均気温は平年並ですが、寒暖の変動が大きいでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北地方で約15日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 13日と期間の中頃、気圧の谷や寒気の影響で天気のくずれる所（10月13日～10月19日）がありますが、その他の日は高気圧に覆われ概ね晴れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約4日

2週目……………

天気は周期的に変わるでしょう。

（10月20日～10月26日）

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約4日

3～4週目……………

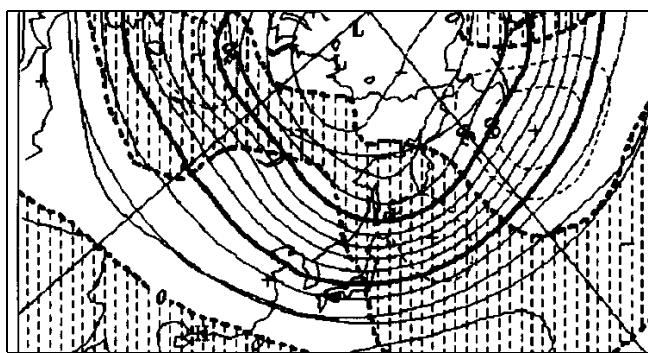
天気は周期的に変わるでしょう。低気圧の通過後は寒気が入り、東北日本海側ではしぐれる所がある見込みです。

（10月27日～11月9日）

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約7日

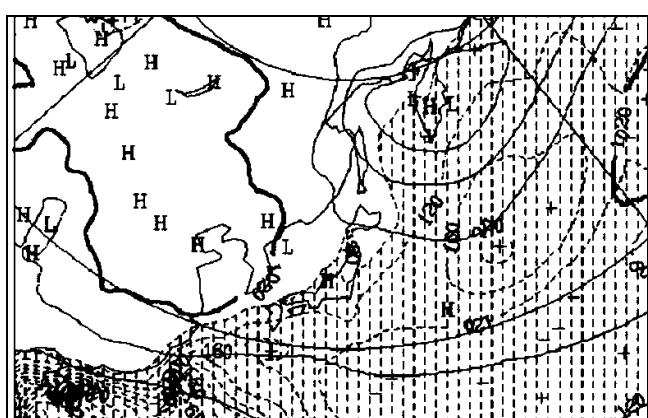
予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



・500hPa高度・偏差

月平均で見ると、東日本から日本の東が広く負偏差で、西日本から大陸にかけては正偏差となっており、東谷傾向を示す。偏西風の流れは東西流が卓越しており、天気は概ね周期的に変化するが、北日本は寒気の影響を受けやすい。

週別（図略）でも東谷傾向で、期間を通して寒気の影響を受けやすい。ただし、負偏差は1週目に北海道以東、2週目に東日本以東、3~4週目には日本以東となっている。

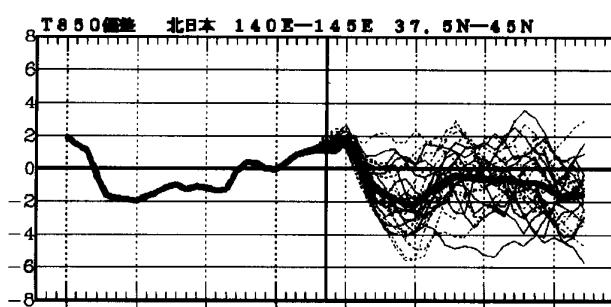


・地上気圧と降水量

月平均で見ると、カムチャッカ半島付近の低気圧と大陸の高気圧が明瞭で、冬型の気圧配置のパターン。ただし、日本付近には特徴なく周期変化が基調となり、低気圧の通過後に寒気の影響を受ける見込み。

降水域は、日本の南海上から北東にのびているが、東北地方にはまとまとものはからない。

週別（図略）では、大陸の高気圧の勢力が徐々に強まる。また、カムチャッカ半島付近の低気圧は2週目にやや弱まるが、概ね月平均と同様。



発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）
の平均値

・北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1週目の初めに平年を上回るが、1週目半ばから2週目初めにかけて平年を大きく下回る。その後は平年並程度で推移するが、3~4週目にかけては下降傾向。

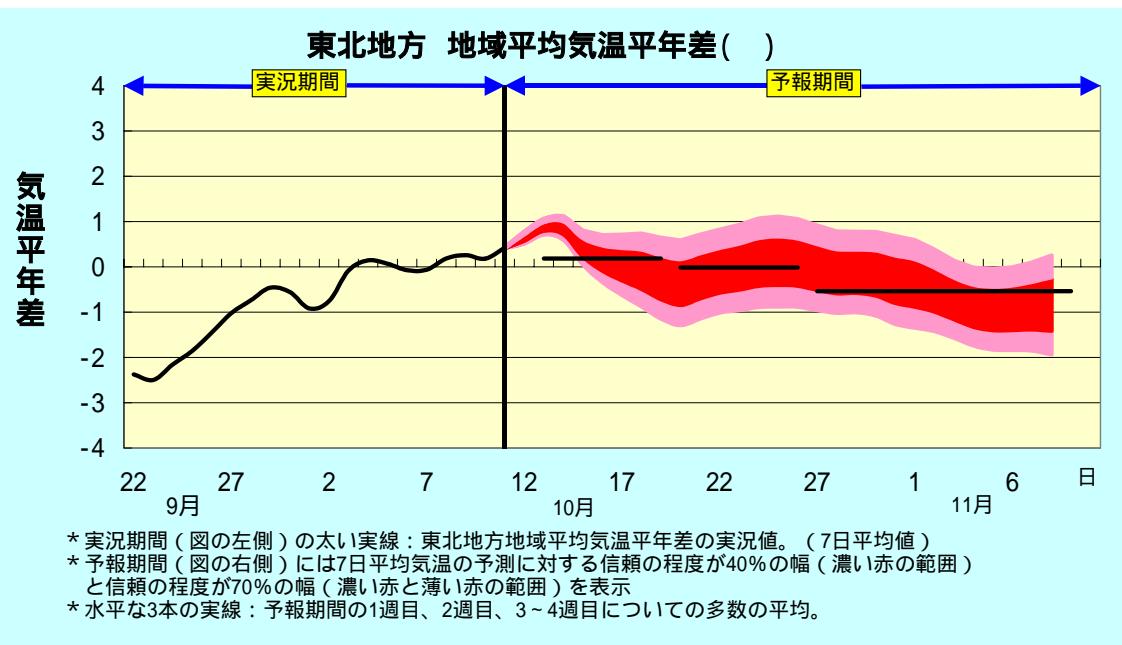
ただし、各アンサンブルメンバーは期間を通してバラツキが大きい。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目とも「平年並」を予測している。

予報は各週とも予測どおりとする。

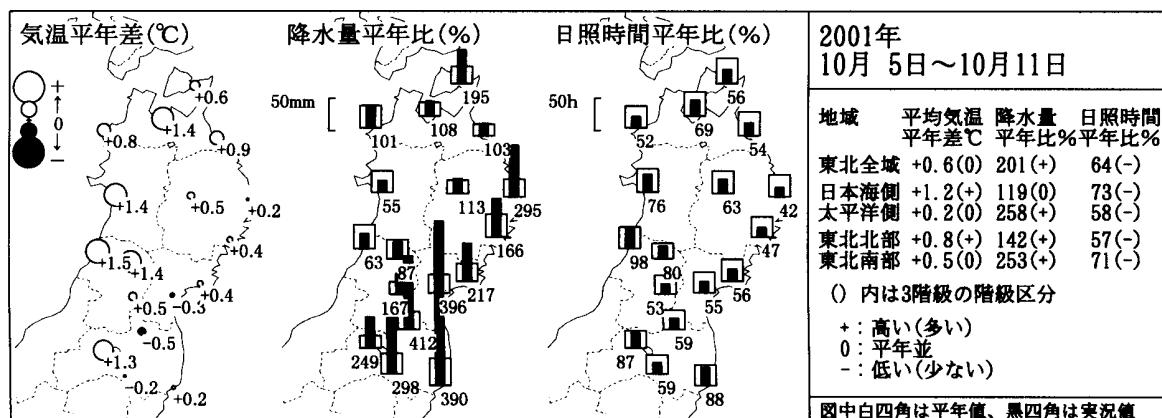
なお、予報の信頼度は小さい。



4. 最近1週間（10月5日～10月11日）の天候の経過

この期間、6~7日に高気圧に覆われ概ね晴れた他は、気圧の谷や前線の影響で曇りや雨となる日が多かった。特に、10日～11日にかけては低気圧が三陸沖を北上したため、東北太平洋側では大雨となった。

平均気温は、東北日本海側で平年差+1.2と高く、東北太平洋側で平年差+0.2と平年並。降水量は、東北日本海側で平年比119%と平年並で、東北太平洋側で平年比258%と多かった。日照時間は、東北地方で平年比64%と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)